

客観的な視点から、グループ全体のガバナンスと企業価値向上へのご提言をいただきました。

持続的な企業価値の向上を目指して

取締役会の目的は、持続的な企業価値向上にあると考えています。ガバナンスはその手段ですが、完成形はないとの認識のもと、実効性を高めるための監督機能を重視しています。特に人事と報酬は重要な監督対象であり、指名・報酬諮問委員会を、目的どおりに機能させることに注力し続けたいと考えています。

取締役会の実態に即した評価を行うには、実際に取締役会において審議する全役員が、期初に取締役会の運営方針と重要課題を設定し、期末の自己評価を踏まえて、翌期にそのサイクルを継続し、実効性を進化させていくことが重要です。

今後も、長年経営に携わってきた私の経験を生かし、社外取締役ならではの意見を積極的に発言し、企業価値の持続的向上に貢献してまいります。

取締役(社外)
オムロン株式会社 名誉会長 **立石 義雄**



新規事業の育成に向けて、大いに議論していきたい

私の社外取締役としての判断軸は二つあります。一つは、取締役会の判断が、業界やSCREEN独自の偏った常識に染まっていないか、社会常識から逸脱していないか、という点。二つ目は、社内体制がきちんと機能しているかという点です。正しく判断するためには、取締役会に正しい情報が上げられることが前提ですが、その点、責任権限規定の充実ぶりなどを見ても、SCREENは緻密に構築したガバナンス体制を運用していると捉えています。

前中期経営計画からの継続課題は新規事業の確立です。現在のように本業が好調な間に、新規事業に投資し、次の芽を育てていくことが重要です。投資内容、期間などのバランスを見ながら、事業の継続の是非なども含め、取締役会で議論していきたいと考えます。

取締役(社外)
株式会社IPSポータル 代表取締役社長 **村山 昇作**



社員がモチベーションをもって能力を発揮するために

世界中にグループ会社を持つSCREENにとって、グループ会社に対するガバナンスは今後ますます重要になります。国によって商慣習や法規制などは異なり、それを踏まえてリスクヘッジをしなければなりません。そのためには、グループ会社の社員までホールディングスの意思が伝わり、一層チェックの目が行き届くことが大切だと考えています。

また、持続的な企業価値向上のためには、人材育成は不可欠です。SCREENは新たに人材育成プランを策定し、しっかりとした制度が整いましたが、これからは職種や年齢層に合わせた社員への落とし込みが重要になります。私が経営しているゲームソフト開発会社には多様な社員がおり、彼らがモチベーションを高め、ワークライフバランスを確保するためにさまざまな工夫をしています。そこでの知見を生かして提言していきたいと考えています。

取締役(社外)
株式会社トーセ 代表取締役会長 兼 CEO **齋藤 茂**



取締役



垣内 永次
代表取締役
取締役社長
最高経営責任者
(CEO)



南島 新
代表取締役
専務取締役
CSR経営担当



沖 勝登志
常務取締役
経営戦略担当



灘原 壮一
常務取締役
最高技術責任者
(CTO)



近藤 洋一
常務取締役
最高財務責任者
(CFO)



安藤 公人
取締役
総務・人事戦略担当
東京地区担当



立石 義雄
取締役(社外)
オムロン株式会社
名誉会長



村山 昇作
取締役(社外)
株式会社IPSポータル
代表取締役社長



齋藤 茂
取締役(社外)
株式会社トーセ
代表取締役会長 兼
CEO

監査役



宮脇 達夫
常任監査役



梅田 昭夫
監査役



西川 健三郎
監査役(社外)
しがきんリース・
キャピタル株式会社
代表取締役社長



西 良夫
監査役(社外)
株式会社 京都総合
経済研究所
代表取締役会長

※補欠監査役(社外)
吉川 哲朗
(京都みらい法律事務所
所長弁護士)

名誉会長ごあいさつ

当社は、中期3カ年経営計画「Challenge 2016」の最終年度となる2017年3月期において、過去最高の営業利益を更新するという好業績を収めることができました。そして、垣内社長を中心とした現経営陣のもと、新たな中期3カ年経営計画「Challenge 2019」で掲げる「グループの成長と質の向上」へとスタートを切りました。SCREENグループの好調な業績、ホールディングス体制の定着を見届けたこの機に、40年間務めてきました取締役を退任いたしました。

グループ経営の第一線からは身を引きますが、今後は「名誉会長」として50数社に及ぶ国内外グループ企業の一体感の醸成に、少しでも役に立てるよう貢献をしていく所存です。また、私を育ててくださった当社関連業界のより一層の発展と、ベンチャー企業の育成などの対外活動にこれまで以上に取り組み、社会への恩返しをしていくことで、CSR経営の一翼を担っていきたく考えています。

ステークホルダーの皆さまには、私の40年間の取締役としての勤めを支えてくださり、心より感謝を申し上げます。今後も引き続き、SCREENグループへのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社SCREENホールディングス
名誉会長

石田 明